NPO法人 熊本まちなみトラスト

第36回理事会(191223)出欠表									
氏名	理事会	7 77	委仟	忘年会					
	191223	出度	出席	出席					
	出欠	人数	人数	人数					
1 青木勝士		/\>	/\>	<u> </u>					
2 麻生田栄壽	0			00					
2 / 外工山木哥	0			\sim					
3 伊藤重剛	\sim			000					
4 磯田桂史 5 磯田節子	0			$\frac{1}{2}$					
5 機田節子	<u> </u>								
6 岡裕二	×理事長			×					
7 工藤栄一郎	×理事長								
8 幸田亮一	×事務局長								
9 西郷正浩	0			0					
10 柴田祐	×理事長								
11 竹田宏司	0			0					
12 田中尚人									
13 鄭 一止(いるじ)	×			× 0 0					
14 辻 泰明	$\stackrel{\circ}{\sim}$			\sim					
15 豊永信博	0			\sim					
16 長野聖二									
10 友野宝—									
17 西嶋公一				_					
18 富士川一裕	0			0					
19 藤本秀子									
20 松波大仁	0			00					
21 宮野桂輔	0			0					
22 宮本茂史	×理事長			×					
23 矢野和之	×理事長								
24 山田穰	0			0					
25 吉野徹朗									
1 荒木幸介	×			×					
2 齊藤修									
会員(コア会員)									
1 本田憲之助									
2 本 幼子									
2 森 純子	0								
3 両角光男	0			0					
4 上野美恵子									
5 上農淑子									
6 清水照親									
7 坂口秀二	0			0					
8 西島衛治	0			0					
9 西島真理子	0			0					
┃ 10 早川祐三									
11 松崎範子									
12 清永泰弘									
13 古賀元也									
14 濱田康成									
15 中田浩毅									
16 東久美子									
17 伊原登志郎									
18 石原靖也									
19 佐々木翔多									
20 長後上羊									
20 反後人美									
21 三國隆昌	0			0					
22 池田由美									
23 黒瀬商店									
24 田中達俊	×			×					
25 原野利一									
26 高田眞人									
27 平山武久									
28 平山偵久									
29 中島淑子									
30 村上亜紀									
31 後藤環									
32 坂井亮太									
33 石橋雅子									
34 熊本ビル部									
35 加瀬島正剛									
35 加潤島正剛 36 田上裕									
00 田上怡									
田中	1 /			1 /					
理事	14			14					

◆前回(11/25)例会以降の経過 KMT事務局会議【冨士川・松波・菊池】

被連協清永部会(回)【磯田桂史·冨士川】 11/26(第104回)~12/18(第107回)

【旧住友部会報告】

11月末~旧支店社屋ライトアップ PSではお披露目イベント 12/12

【助成金報告】

①HC財団:今年度事業実施中

②三井物産環境基金:

2月に連絡あり4月に採択の可否連絡予定 ②お金を回そう基金

クラウドファンディングスタート12月10日ごろ

★周りから盛り上げる必要性アリ

【**出前講座報告**】日本都市計画家協会との共催 第1回 11/20 第2回 12/17(火) 第3回 2020. 2/4 予定 いずれも@PS

Р7

【県大GP】

学生GP(地域連携型卒業研究) 12/12(木)公開審査会→共同研究続行 次年度も継続予定

【賞の応募・内定】

①2019年度日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞 12月決定/1月記者発表(@熊本)/3月授賞式

【文化財保存修復学全国大会in熊本】予定 12/19(木)副理事長・本田光子氏と下打ち合わせ @PSオランジュリ/熊本県文課、金剛さんも

【ネパールのモハン・パント氏の取材】12/25予定 バクタプル クァパエ科大学教授(現在京都大学招聘教授) 矢野さん→京都大学・増井教授→冨士川

◆議決事項

被連協アンケート結果の確認と組織の再編

P2

P11

◆忘年会 19:30-21:30

2020年の抱負を囁きあい耳を傾ける

理事 14 (+委任状出席6=20>理事総数25×1/2

会員55合計出席者1919

2019 年 12 月 23 日 NPO 法人 熊本まちなみトラスト事務局

被連協の発展的解消と新組織

熊本地震から3年8ヶ月が経過した。早々に復旧を果たされた方がいる一方、現在復旧工事中の方、まだ多くの課題を残す方など、会員の方の復旧復興は一様ではない。また、やむなく解体を決意した方もいれば、復旧工事中に火災で全焼した方もあった。

被連協は、未指定文化財の所有者を中心に、①情報を共有し、②励まし合って未体験の震災からの復興に立ち向かうことと、③未指定文化財に対する復旧費用の補助制度の創設を目的に設立されました。その意味では初期の目的は果たしたのではないかと思われます。

被連協の今後を考えるにあたって、同協議会を取り巻く現状と課題について整理する。

【 これまでの経緯のなかで明らかになった課題 】

- 1. グループ補助金は早い時期の復旧に効果があったが、対象が事業所に限定された。
- 2. 未指定の文化財を対象にする文化財補助金(熊本県)は、画期的な制度の創設となったが、運用開始に時間がかかった。
- 3. 熊本市の町屋復旧補助制度も、運用開始に時間がかかった。
- 4. 「公費解体」制度の申込期限が再建の意欲を削ぐ形で働いてしまった。
- 5. 復旧工事の方法については建築基準法などの規制が障害になる
- 6. 生業の継続が難しかった場合には、再建後の採算のめどが立たない
- 7. 後継者に課題があった場合には、短期間での意思決定が困難であった
- 8. 再建後に新たな形態での利活用を図ろうとしても、短期間でめどをつけることは困難

このような困難の中で多くの町屋が解体され、地域には空き地や駐車場が目立つようになり、個々の建物の保存という次元を超えた**エリアとしての課題**も浮上してきている。

一方で文化遺産としての価値を確認し、地域を挙げて保存・利活用を図るためには、**新たに移住してきたマンション**などの住民の方々を含む市民の幅広い理解と支援が欠かせないということも実感されてきました。

【 これからの活動に関連すると思われる動き 】

「創造的復興」を掲げた県は、地震直後の日本イコモス国内委員会の提言を受ける形で被連協の活動にも注目し、現在に至っても小野副知事を筆頭に、文化課などが前向きな対応を続けられている。

市も基本的な復興政策を続けながら、被連協などの問題提起に応える形で「歴まち法」の適用認定に動いている。 更に商工会議所と経済同友会が策定した「熊本市中心市街地グランドデザイン2050」という提言を受けて、熊本 駅周辺再開発と桜町再開発を睨んだ活性化に取り組まれている。 一方、県下には被災した類似の未指定文化財が散在し、所有者はそれぞれに課題を抱えていることが想定されるが、トラストとして直接関与するには至っていない。

また全国にも類似の問題を抱えていたり、一定の解決に取り組んでいたり、逆にそれらを活かしてまちづくりや観光誘致に成功している事例も多い。

【 被連協アンケート 】

このような課題と環境の中で、当初の復旧から、新たな発展を目指す活動への切り替えの時期が来ている。7月から8月にかけて行った下記の会員アンケートの分析結果を示し、トラスト自体の今後の方向性をにらんだ組織案を考察する。

会員に提示した3つの方針案。これらから一つを選ぶのではなく、望ましい順番を示して貰った。

- 1. 現状の被災文化財所有者等連絡協議会を維持し、活性化や有効な利活用に向けた活動を増やす。
- 2. 被災文化財に限らない歴史文化遺産所有者等の組織に改組するため発展的に解消し、復旧から復興に向けた新たな文化財の活用を目指していく。
- 3. 解散する。

さらに今後取り組むべき課題を複数回答で選んでもらった。

[] 追加的支援の獲得	[] 地元住民との連携の強化	[] 地区の活性化への取り組み
[] 利活用方法の開発	[] 文化財の価値の再発見・広報	[] 他地域との連携
[] 新たな連携の模索	[]「歴史まちづくり」への取り組み	[]他分野との連携

最後に自由に感想を記述してもらった。

【 アンケートの集計・分析 】

1)集計結果

有効回答 14 のうち現状維持は1、発展的解消は10、解散が3となった。

積極的に現状維持を希望したのは 1 名だけで、解散を支持したのは 3 名。この 3 名の課題の選択は共通して「活性化」があげられている。単独で又は被連協とは別の土俵で活性化を目指すという考え方と考えられる。逆に発展的解消を積極的に支持した人たちの課題の意識は、「活性化」は共通しているもののさまざまに分散しており、この団体での連携を模索し、利活用を開発したいという問題意識が強い。

2) 考察

解散を支持する意見でも「活性化」が共通して課題として挙げられており、この地域におけるまちづくりが、ある種の壁に突き当たっていることを示唆している。そのことが、発展的解消派の課題意識には地域連携や文化的価値の顕彰・広報の必要性が多く挙げられているものと思われる。そこには駅前と中心市街地の中間地にあって、市民に認知されるような特色を打ち出し切れていない新町古町の苦悩が窺える。

表 1. アンケート集計表													
	氏名	①現状維持	② 発展解消	解散	追加支援	活用開発	地域連携	地元連携	文化価値	他域連携	活 性 化	歴 ま ち	他分野
6.	「解散」Aさん	×	\triangle	0							0		
7.	「解散」Bさん	×	\triangle	0							0		
11.	「解散」Cさん	\triangle	×	0							0	0	
1.	「発展解消」Dさん	\triangle	0	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2.	「発展解消」Eさん	\triangle	0	×			0				0		
3.	「発展解消」Fさん	\triangle	0	×			0		0	0		0	0
5.	「発展解消」Gさん	×	0	\triangle		0					0		
8.	「発展解消」Hさん	\triangle	0	×		0			0				
9.	「発展解消」I さん	×	0	Δ								0	
10.	「発展解消」」さん	Δ	0	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12.	「発展解消」Kさん	Δ	0	×				0			0		
13.	「発展解消」Lさん					0	0	0		0			
14.	「発展解消」Mさん	Δ	0	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.	「現状維持」Nさん	0	Δ	×	0	0			0			0	
		34	64	32	4	7	6	5	6	5	9	7	4

①現状維持+利活用 ②被災に限定しない文化財に範囲を広げる ③解散 *① \sim ③の選択では1位を6点、2位を3点、3位を1点として集計した。

【 トラストの現状と課題 】

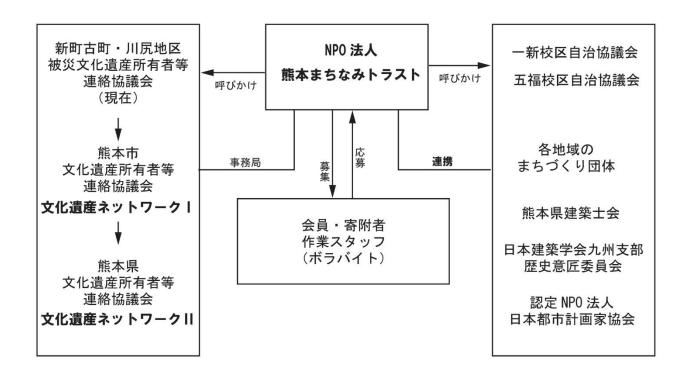
一方でトラスト自身は、震災前のボランティアによる個別救済活動から、震災復興という需要に応える形での、かなり 集中的な組織活動、NPO 法人化を経てきており、被連協活動が区切りを迎える中で、今後の目指すべき道の確立が 問われている。

震災前の活動に戻るという選択肢もあるのかもしれないが、新町古町の未指定文化財とそれを取り巻くまちづくり活動の課題が明らかである以上、個別の救済活動には限界もあり、活動を次世代に引き継ぐという観点から見れば、逆により積極的に同地区の活性化に関わることが求められていると考えるべきではなかろうか。この一年間で試みてきた法人会員の獲得や歴まちへの関与、新町と古町の連携を促す活動は NPO 法人格を得たことと併せて、より本格的な保存、まちづくり、活性化への関与を示唆している。

【「被連協」改め「文連協」の活動方針(案)】

- 1. 被連協は「文化遺産所有者等連絡協議会/文連協」に改編し、トラストを事務局として広く市内の文化遺産所有者や保護活動の推進者の参画を募る(文化遺産ネットワーク I)。
- 2. 文連協は、新町古町地区および川尻地区をはじめとする熊本市における加盟文化遺産の個別のまちづくり活動と 城下町としてのエリアマネジメントを共同で推進する。例えば、共同イベントの開催、共同マップの作成等。

- 3. これらの活動を市による歴史まちづくり推進と有機的に結合させるための組織活動を行う。
- 4. 上記の活動を発展させるために、従来暗黙裡に緩い連携を保ってきた市内、県内のまちづくり活動とのより積極的な連携を「文化遺産ネットワーク II」として追及する。



被災文化遺産所有者等連絡協議会:熊本地震の後、2016 年 11 月 12 日に設立。新町古町地区 25 人、川尻地区 9 人の建物所有者(賃借人 2 人を含む)が加盟。熊本まちなみトラストが事務局参加。一新校区・五福校区の自治協議会会長は世話役として参加。

校区自治協議会:自治会をはじめ社会福祉協議会、青少年健全育成協議会、公民館、防犯協会など小学校区の地域団体で構成され、 団体相互の連携のもとに、地域活動の推進や地域課題へ対応することにより、円滑な校区運営を図るための組織。

熊本県建築士会: 県内各地域に支部を持つ。全国の県建築士会と同様へリテージマネージャー養成講座を設け、約100人のヘリテージマネージャーを擁する。平成28年熊本地震の後は文化庁が支援する文化財ドクター派遣制度が全国建築士会連合会に事業委託され熊本県建築士会が実施を受け持った。

地域のまちづくり団体: 平成 28 年熊本地震後に立ち上がった団体もあるが、県内にはそれ以前から各地のまちなみ保存に取組む(宇城市小川町の「風の会」のような)団体がある。

図 1. 文連協活動に関連する組織図

【 熊本まちなみトラストの活動方針(案) 】

このようなトラスト活動をより明確に定義し、産・官・学にアピールして、新たに「産・官・学・民」によるまちづくりを目指す 運動につなげる。

このような活動は、近年注目されてきている SDG s の考え方も取り入れながら、より広い連携を目指すことができる。

この方針は、法人会員獲得を目指して起案し、理事会/定例会で推敲を重ねた「勧進帳」で到達した、NPO 法人としての活動のモデルにも合致するものである。

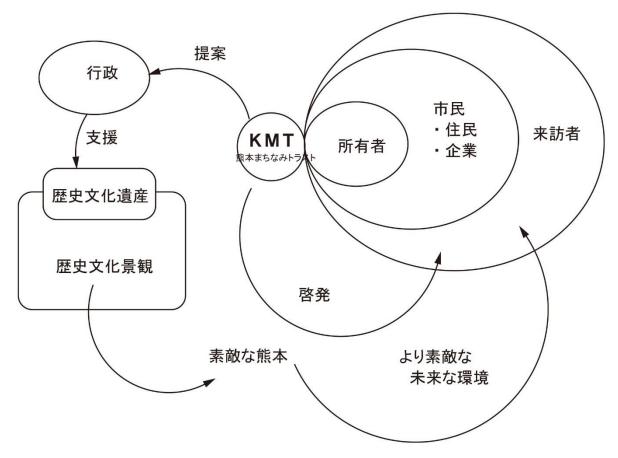


図 2. NPO法人としての活動目標(7月22日理事会での検討成果)

このような活動をより恒久的なものにしていき、後継者の育成や若年層への啓蒙などを可能にするためには、上記のような構造の中で市もしくは県から文化遺産ネットワークの事務局業務の委託を受けることを目指すことも考えられる。

地域主体のまちづくりを学ぶ まちづくり出前講座

第2回:防災の観光化 観光の防災化

日時:2019(令和元)年12月17日(火)18:30~20:15

場所: PS オランジュリ(熊本市中唐人町) 参加者: 37 人(講師のお二人を除き)

- 〇開会 講座の趣旨(KMT 松波広報部長)
- 〇熊本まちなみトラスト(KMT)伊藤理事長ご挨拶
- 〇都市計画家協会と講師の紹介(KMT 冨士川事務局長)
- ○講座 1:講師 土肥英生

(日本都市計画家協会理事/NPO 燃えない壊れないまち・すみだ支援隊)

- (1)墨田区の概要
 - ①墨田区の(夜間)人口は27万人、荒川を挟んで隣接する葛飾区を合わせると73万人熊本市の1/8の面積に同じくらいの人口が居住している。
 - ②被災の記憶—100 年間に2回—: 1) 関東大震災(1923)本所被服廠跡地への避難者が 火旋風の発生などで、3 万 8 千人焼死 2) 第二次世界大戦の空襲(1945)によって、6 万 人超の死傷者と30 万人近い罹災者
 - ③水戸街道(国道 6 号)と明治通りに囲まれた曳船駅周辺は、住工混在の木造密集市街地・・・燃えやすく壊れやすい
 - ④不燃化促進事業等による延焼遮断帯形成と耐震改修等による燃えない壊れないまちづ くりを推進している
- (2)燃えない壊れないまち・すみだ支援隊の取組み
- ①区長諮問組織として会議体の発足=専門家が多く参加する「円卓会議」
- ②東向二四地区まちづくりを考える会(都市防災と福祉施策の連携を目指す)
- ③大学生・大学院生協力による防災マップづくり(芝浦工大中村に研究室)
- ④※8つの構成団体ですみだ燃えない壊れないまちづくり会議を結成、検討を重ね 「寄合い処(ふじのきさん家)」を整備
 - 篤志家(企業)による場所(建物)の提供/部材メーカーの協力/早稲田大学長谷見研究室と東京大学生産技術研究所加藤孝明研究室の協力
- ⑤ふじのきさん家における活動 ・・・(配布冊子) 「ふじのき BOOK」参照 2013 年 4 月スタート →ふじのきカフェ、高齢者のふれあい・交流、防災講座・防災遠足 ふじのき音楽倶楽部、手仕事地域交流・・・
- (3)新たな防災文化の創造に向けて
 - ①都市計画は未来からの逆算ができるが、防災は(いつ起きるかわからない災害への対応

なので)未来からの逆算が出来ない

- ②だから、日常生活の中で「防災文化」をつむいでいく必要がある
- ③具体的には、学生ボランティアグループによる「防災遠足」や「防災観光ふろしき~なまず ふろしき~」の商品開発
- ④「コミュニティ活動」、「防災活動」、「ものづくり活動」がすみだの巣づくりの3本柱





○講座 2:講師 大鋸幸絵

(NPO 燃えない壊れないまち・すみだ支援隊/防災観光ふろしきプロジェクト発起人) 観光ふろしき の紹介

- ①日常に防災意識を浸透させるためにマップに街の名所を取り入れた 特に、避難する方向の目印になるような箇所を図示した
- ②避難場所については、「一時(いっとき)集合場所」も加えた
- ③防災ふろしきを使って小学校でイベントを開催
- ④「防災」というと負をなるべく小さくするための「義務感」のイメージが強いが、「文化」という 観点から捉えなおすことで日常的な活動の一部にすることが出来る
- ⑤防災観光ふろしきは、地域の防災を「文化」として捉える試みの一つとして位置づけたい

○参加者との意見交換 (Q. 参加者の質問/A. 講師の回答)

- Q. 観光防災ふろしきについて、できた経緯についてお尋ねしたい。また、これは真似をしていいのかということも。
- A. 火災の延焼モデルの研究をしていた芝浦工大の研究室の学生たちが「防災マップ」を作成しアンケート調査でマップの目的を確認したり、円卓会議でも検討してもらったりした。 自分自身がプロダクトデザインを専門にしていて水着の開発にも携わった経験があり、撥水性があり水をためることが出来、強く押すとシャワーのように水を通すことの出来る素材

を採用した。

東京都も作ってしまったので、真似をするのはかまわないと思う。

- Q. スポンサーはどれくらい集まったらできそうですか?
- A. 1社5万円でお願いしたが、別に朝日新聞等からの種銭が500万円ほどあった。
- Q. 手拭やエコバック(買物袋)など他の用途もあると思うが?
- A. 手拭はいいですな。
- Q. 「防災」は字ズラが硬いので何か別の言葉はないのか?
- A. そう思うが、行政には刺さる言葉なので敢えて使った。一般の人には、「防災観光って何?」と興味をもってもらうことを狙った。北斎のなまずの絵も取り入れており「なまずふろしき」という別の呼び方もしている。
- Q.「防災食はまずい!」は先入観であって、最近自分の自治会の防災訓練で防災食は完食された。まずい!の先入観を払拭する方法は?
- A. 回を重ねると親しみをもってもらえる。アルファ米もカレーにしたり工夫を重ねる。
- Q. (意見)「防災」をもっとくだけた、ユーザーフレンドリーなこととして広めたい。





○講師からのまとめの一言

(大鋸)

昔からやられてきたコミュニティ活動が不活発になってきているが、「防災」は最後の砦なのではないかと思う。「防災」を支点にして作用点である福祉や子育てなどの諸活動を活発にしていければと思う。

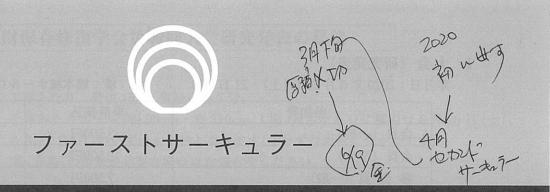
(土肥)

河川氾濫に対して大阪市では防災計画の中で、付近住民の一時避難の受け入れができるマンションを公開している。若者の間でのリノベーションが盛んになっているが、専門家を派遣し地震に対する構造補強の方法を提案する動きもある。

過去にどんな災害が起きたのかという人の記憶を継承することも重要。人の記憶と場所をどのようにつないでいくのかということは「まちづくり」の大きな役割りだと思う。

〇(司会)結びと第3回出前講座のご案内

=了=



一般社団法人

文化財保存修復学会

第42回大会 於熊本

2020年6月20日(土)/6月21日(日) 熊本城ホール(熊本市中央区桜町)

主 催 文化財保存修復学会

共 催 熊本大学永青文庫研究センター

後一援(予定) 熊本県、熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会

熊本県文化協会、熊本県文化財保護協会、熊本県博物館連絡協議会、 九州博物館協議会、九州山口ミュージアム連携事業実行委員会

文化財保存修復学会第42回大会および2020年度総会のご案内

師走の候、文化財保存修復学会の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

本学会は、わが国の文化財保存と修復にかかわる研究者、修復家、学芸員などさまざまな分野の会員が1,100名を超えるまでに発展してまいりました。大会も回を重ね、第42回大会・2020年度総会を開催することになりました。

今大会は、熊本県熊本市の熊本城ホールで6月20日(土)、21日(日)に開催いたします。熊本大会では、2016年の熊本地震を契機に様々な主体が取組んだ被災文化財支援の活動を元に、文化財防災についての学びを得ることをテーマにしたいと考えております。近年、我が国では、地震のほか、台風や豪雨といった風水害、あるいは火災などが度重なり、災害から文化財を守るための防災のありかた、被災した文化財への対応といった課題が山積しています。そこで本大会では、会期中の特別講演や特別セッション、大会前日の公開シンポジウムやエクスカーションでこれらの活動をご紹介し、これからの文化財防災について皆様と考える機会を設ける予定です。

会員の皆様方の最新の情報発信の場、文化財保存修復のあり方に向けた活発な討議の場として、実りある成果が得られるようふるってご参加いただきますとともに、文化財への関心のある方々も是非お誘いくださいますようご案内いたします。

たくさんの方々が全国からご参集いただきますことを関係者一同、心よりお待ち申し上げます。なお、今大会では、熊本県在住の方々への支援の一環として参加登録費を設定いたしました。会員、参加者の皆様のご理解をいただきますようお願い申し上げます。

2020年1月10日 一般社団法人文化財保存修復学会

第42回大会 エクスカーション